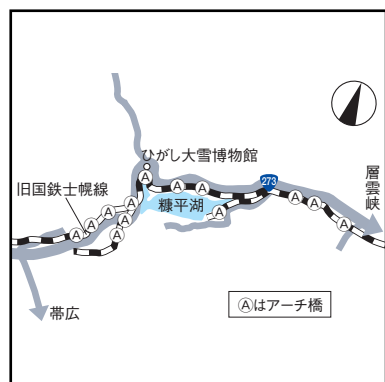




Data

土幌線は十勝北部の農産物や森林資源の開発に貢献したが、1000mで25m登る急勾配と半径200mのカーブが続き、終着の十勝三股駅は海拔661.8mという本格的な山岳鉄道でもあった。そして音更川の溪谷に沿って作られたため多くの橋を架ける必要があったが、コストをおさえるために現地でとれる砂利や砂を使って建設できること、また大雪山国立公園内の溪谷美に合う橋にすることからアーチ橋を架けることとなった。

土幌線：1937年・上土幌～糠平間開通
 39年・糠平～十勝三股間開通
 78年・糠平～十勝三股間廃線
 87年・帯広～糠平間廃線



●お問合せ先
 上土幌町企画課 Tel.01564-2-2111
 ひがし大雪アーチ橋友の会事務局 Tel.01564-2-3358

国道に戻って再び北上すると約5分後、第5音更川橋梁（長さ109メートル）が見えた。柱の間が10メートルのアーチが連続し、川をまたぐ部分の間隔は23メートル。さらに数分後、第6音更川橋梁（長さ96メートル）が見えてきた。周囲の樹木に隠れるように、けわしいがけ地に架けられている。

旧国鉄土幌線は帯広駅から上土幌町の十勝三股駅まで延長78・3キロ。帯広～上土幌間が1926年に開通し、39年に十勝三股まで延びた。線路は音更川の溪谷に沿っていたため多くの橋を架ける必要があり、大雪山国立公園内の溪谷美と調和

するデザインにしようとコンクリートアーチ橋を採用した。

土幌線は十勝北部の森林資源と農作物の輸送に貢献したが、車社会の到来で78年に糠平～十勝三股間がバス転換され、87年に全線が廃止された。



第三音更川橋梁

業遺産の保存活用」というシンポジウムを開催。研究者たちは「アーチ橋の保存運動に乗り出してほしい」と地元要請した。

同町のまちおこしグループ「地域の宝さがしの会」がこれを正面から受け止め、同会を母体に同年10月「ひがし大雪鉄道アーチ橋を保存する会」が結成された。

署名運動や保存活用策の提言など活発な運動を展開。この運動が上土幌町役場を動かし、1年後の98年10月、旧国鉄清算事業団が同町に橋梁群と線路跡地の一部を無償譲渡する契約が結ばれ、保存が決まった。それ以降、これまでに同町は大小34のアーチ橋を取得した。このうち4本は国の登録有形文化財に指定されている。

上土幌町役場では企画課ひと・まちづくり推進室がアーチ橋梁群の保存・活用策を検討。環境省の「長距離自然歩道構想」に沿って、旧国鉄土幌線線路跡地を整備する計画案が浮上している。

民間レベルでは「保存する会」を継承して99年10月、「ひがし大雪アーチ橋友の会」（坂本徳寧会長、会員236人）が発足。アーチ橋散策地図の作製や遠足、線路跡地の草刈り、フォーラムの企画、会報「めがね橋だより」発行など活発に活動してきた。

このあと、写真集の出版やアーチ橋利用プラン作りを計画。登録文化財がある市町村で作る全国近代化遺産活用連絡協議会の来年度総会とシンポジウムを誘致し、アーチ橋の保存・活用に弾みをつきたい考えだ。